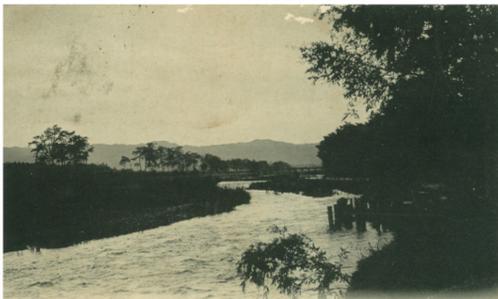


絵図・絵葉書・写真でたどる鴨川の風景



出雲路橋 (1918~1932)
現橋(1983年架設)も同じ形式の高欄を用いています



鴨川の上流部 絵葉書には「加茂川堤邊見」とあります (1907~1917)



葵橋 (1907~1917)
人々が傘を差しながら、葵祭の行列を観覧しています



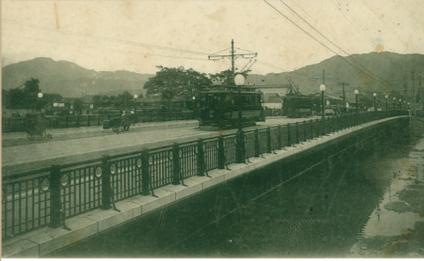
賀茂大橋 今と変わらない灯明、石の高欄です (1931~1932)

賀茂大橋



荒神橋と牛車 (明治前期の写真)
荷物を運ぶ牛車は橋を渡れず、川を横断していました

荒神橋



丸太町橋の上を路面電車が走っています (1907~1917)



三条大橋と三日月 (1918~1932)
納涼床は三条大橋の下だけで楽しまれていました



(1918~1932)
天正18(1590)年に作られた擬宝珠の上に積もる雪。風情を感じます



雪の三条大橋 (1900~1906)
茶屋から張り出した高床式の納涼床、茶屋への階段も見えます



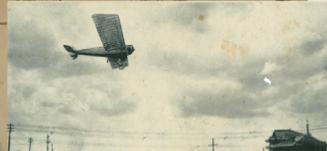
三条大橋 (1907~1917)
右岸には今のみそぎ川の前身の流れが見えます



竹村屋橋 (1907~1918)
四条大橋上流に、個人が架橋した竹村屋橋がありました



四条大橋上流の納涼床 (明治前期の写真)
河川敷の全面に置かれています



1914
荻田氏の飛行
民間飛行家の先駆者・荻田常三郎氏が四条大橋の上空を飛行しています



(1918~1932)
四條大橋の鴨川運河は、今も川筋通りになっています



1913
四條大橋の渡切式
鴨川運河(琵琶湖疏水)と鴨川の間に階段で降りることができました

五条大橋



(1918~1932)
五条大橋
橋脚は石造、擬宝珠は青銅製です



(1914~1917)
七条大橋
約100年前の美しいアーチを楽しめます

昭和10(1935)年の京都大水害から85年目となる2020年。「鴨川」にスポットをあて江戸期の絵図を背景に絵葉書・写真で当時の状況表現してみました。背景に用いた『賀茂川筋明細絵図』(京都産業大学図書館蔵)は宝永年間に寛文新堤を始め鴨川の管理のために作成された絵図で、石積護岸や蛇籠のなどが詳細に描かれています。

当時の様子を物語る絵葉書(私製)は明治33(1900)年の郵便法により許可され、今日にいたるまで人々の思いを届ける通信手段として発展してきました。

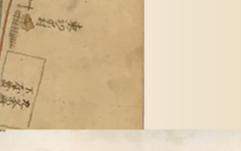
絵葉書選定、解説はこれまでの学びや川歩きを踏まえ、京都産業大学鈴木ゼミの学生とカッパ研究会のメンバーが行いました。記載の年代は、郵便法改正に伴う宛名面のルール変更や風景から推測しています。名所の橋、季節で変わる水辺の風景、川を行き交う人々、当時の鴨川に思いをはせ、未来を考えるきっかけになることを願っています。



(明治後期の写真)
今歩ける場所が昔は川底で、近くに牛車道があります



(1900~1906)
野菜を洗う人(荒神橋下流)
鴨川の水量が少なく、川底も高かったことがわかります



(明治後期の写真)
夏の夕暮れ
納涼床で楽しいひと時を過ごしています



(1900~1906)
三条大橋上流付近の鴨川運河(琵琶湖疏水)です



(1907~1917)
3つの形式の納涼床
水面、高水敷、茶屋で、それぞれの床を楽しんでいます



(1918~1932)
舟と舞妓
この絵葉書は当時プロマイドとして販売されていたのでしよう



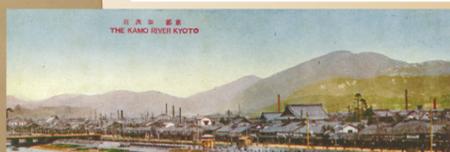
(1907~1917)
納涼舟
舟で納涼を楽しむこともありました



(1933~1944)
高山彦九郎の銅像
鴨川運河(琵琶湖疏水)の上で、御所に向けて遷葬しています



(1918~1932)
なだらかな川岸
一段高い水路は鴨川運河(琵琶湖疏水)です



(1918~1932)
京阪電車
1915年に五条から三条に延伸しました



(1911)
七条大橋
本派本願寺(西本願寺)光願院のご昇儀光景です



(1918~1932)
友禅染 水洗場
京の風物として知られた友禅流しですが、今は禁止されています